

兒玉氏沈降反應法ノ黴毒診斷上ニ於ケル價值ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30566

兒玉氏沈降反應法ノ微毒診斷上ニ於ケル價值ニ就テ

岡 本 京 太 郎

(本編ハ金澤皮膚科集談會第二十三回例會ニ於テ報告セル者ナリ)

微毒ノ血清診斷法ハワッセルマン氏反應ヲ主トシ之ニ其變法ヲ算ヘ尙化學的反應、理學的反應、絮狀形成反應、凝固反應沈降反應等ヲ舉グレバ二十數種ノ多キニ達スレドモ成績確實ナルモノノ操作容易ナラズ操作簡易ナレバ成績信シ難キノ缺點アリ從テ僻邑ノ實地家ニハ血清診斷ノ便益ヲ得ル克ハザルモノ多シ故ニ今尙吾人ハ操作簡便ニシテ診斷價值ノ大ナル方法ヲ求メテ已マザルナリ。

本校教授兒玉博士ハ嘗テ氏ガ創製セル一種ノ沈降原液ヲ以テ微毒患者血清ノ沈降反應ヲ檢査シ其簡易ニシテ成績確實ナルヲ報告セシガ其後宮路、鈴木、丸山ノ諸氏之ヲ(或ハ多少「モチフキチーレン」シテ)複試シ何レモ之ガ診斷價值ノ大ナルヲ賞賛シ本年六月更ニ兒玉氏ハ「微毒ノ簡易血清診斷法」ト題スル論文ヲ公ニシテ此沈降反應ヲ推獎シタリ此方法ヤ操作實ニ簡易ナリ若シ其診斷的價值ガ果シテ兒玉氏及他ノ數氏ノ云フ如クンバ普ク隨處ニ施行シ得ベキ良法ナリト云ハザル可ラズ、然ルニ未ダ廣ク醫界ノ承認ヲ得ザルガ如キヲ以テ予ハ親シク兒玉氏ノ操作ヲ見聞シタル後聊カ之ガ複試ニ着手セリ實驗未ダ小數ニシテ確ナル斷案ヲ下スノ秋ニ達セズト雖ドモ共同實驗者山田氏ノ勸メニ從ヒ茲ニ其一端ヲ披瀝セント欲スルナリ。

本反應ノ診斷的價值ヲ知ランガ爲メニ予ノ取りシ方法ハ普通人ノ爲スガ如ク只一方臨床診斷ト對照シ他方ワッセルマン氏反應ト比較セシニアリ解剖的診斷ヲ參考シ得ザリシハ遺憾ナレドモ一少部分又療法ノ影響ヲ顧慮シタルモノアリ而シテ先入爲主ノ誤認ヲ避クルガ爲メ主トシテ畏友皮微科専門ノ山田孝太郎氏ヨリ分與セラレタル臨床所見及ワッセル

ルマン氏反應成績ニ就テ少シモ預知スル所ナキ血清ヲ使用シタリ則テ山田氏ガ自ラ採取セラレタル血液ヲ二分シテ一ヲ金澤病院ニ送リワッセルマン氏反應ノ検査ヲ托シ一ヲ同時ニ予ニ交付セラレタルナリ故ニ臨床診斷者トワッセルマン氏反應検査者ト兒玉氏反應検査者トハ始メ互ニ知ル所ナクシテ検査ヲ了リ後其成績ヲ比較セシモノニ屬ス。

予ノ使用シタル沈降原ハ全然兒玉氏ノ製法ニ從ヒ「モルモット」心臓ヲ計量シテ細挫シ之ニ適宜依的兒ヲ加ヘ時々振盪シテ二三日間室温(依的兒ヲ二三回交換シツツ)ニ放置シ其後尙一回依的兒ヲ以テ洗ヒ之ヲ拋棄シ次デ心片ヲ濾紙間ニ挿ミテ依的兒分ヲ去リ以前計量シタル心片一ニ對シテ八五%ノ「アルコホル」五倍量ヲ加ヘ室温ニ於テ浸出スルコト(時々振盪シテ)一週ノ後濾過シ全ク透明ナル濾過ヲ得之ヲ兒玉氏自身ガ使用セラルル沈降原液ト對照シ其銳敏度ノ劣ラザルヲ檢定シタルモノナリ(新ニ製セシ沈降原液ハ是非反應ガ明ナル液ト對照シテ檢定ヲ經ルヲ要ス何トナレバ同シ操作ニヨリテ作りシ液モ時トシテ反應力微弱ナルモノアレバナリ)而シテ使用ニ際シテハ之ヲ滅菌生理的食鹽水ヲ以テ十倍ニ稀釋ス此稀釋ニ當リ注意スベキハ沈降原液ト食鹽水ト徐々ニ觸接スレバ「リポイド」析出ノ爲メニ白濁ヲ生ジテ検査ニ不適當トナルガ故ニ兒玉氏ハ吹込法則チ九容ノ食鹽水中ニ一容ノ沈降原液ヲ「ビベット」ヲ以テ深く一頓ニ吹込ムコトヲ賞用セラルルカ要スルニ多量ノ食鹽水中ニ少量ノ沈降原ガ急頓ニ瀾散スレバ可ナルヲ以テ予ハ單ニ沈降原液ト食鹽水ヲ別個ノ試験管ニ盛り之ヲ一頓ニ振盪混合シテ常ニ其目的ヲ達セリ。

(附言) 操作ノ不適當ナル爲メ沈降原液ヨリ「リポイド」ノ析出スルハ尤モ忌避スベキコトニシテ爲メニ沈降原質減損シテ効力ヲ弱ムルノミナラズ一方輕濁ノ爲メ反應ノ判定ヲ誤ラシム此點ハ原著者ガ切言スルノミナラズ他ノ後試者モ苦心ヲ拂フ所ナリ而シテ宮路氏ハ食鹽水稀釋ニ代フルニ蒸餾水ヲ以テシ鈴木氏ハ食鹽水中ニ沈降原液ヲ徐々ニ滴下スル法ヲ取ルモ兒玉氏吹込法及予ノ急頓混合法ハ水様透明ノ反應液ヲ得ルニ最モ可ナリ兎ニ角兒玉氏反應ヲ後試スルモノハ此點ニ留意セザレバ成績ニ差異ヲ來シ本反應ノ効力ヲ誤認スルニ至ルベシ。

検査方法ハ交付セラレタル血液ヲ直ニ氷室内ニ藏シ血清分離スルヤ則日ニ多クハ其翌日ニ於テ約〇・一ccツツ三本ノ

細硝子管(直徑約二分位)ニ盛り甲乙ノ二本ヲ五十六度ノ水浴中ニ三十分温メテ非働性トナシ丙ハ働性ノ儘試験管臺ニ立テ甲ト丙ニ前食鹽水稀釋ノ沈降原ヲ毛細硝子管ニヨリ靜カニ試験管内壁ニ接シツツ滴下シテ血清上ニ層重シ乙ニハ八五%「アルコホル」ニ容ヲ滅菌食鹽水九容ニ稀釋シタルモノヲ加ヘテ對照トス而シテ室温ニ於テ五分以內ニ接際ニ白輪ヲ現ハスモノヲ(卅)トシ一時間以內ニ現ハルルモノヲ(卅)トシ一時間以後ニ於テ漸ク現出スルモノヲ(十)トシ甲ノ非働血清ニ陽性ナルモ丙ノ働性血清ニ陰性ナルトキハ之ヲ(土)トナシ甲丙兩ナガラ陰性ナルヲ(一)ト定メタリ。

但シ兒玉氏ガ氏ノ沈降反應試驗ニ非働性血清ヲ使用スルハワッセルマン氏反應ト比較スル必要上多クハ一旦ワッセルマン氏反應檢査ヲ經テ已ニ非働性トナサレタル血清ヲ取リシニ始マリ非働性トナサザル可ラザル學理上ノ根據ヲ有シタル譯ニハアラズト雖モ實際非働性血清ハ働性ノモノヨリ反應ノ發現著明ニシテ働性ノモノハ確ニ微毒性ナルニ拘ラズ往々陰性トナルコトアルヲ見タルニヨルト云フ予モ亦非働性血清ハ働性ノモノヨリ接際白輪ノ形成早クシテ著明ナルヲ認メ且ツ同一血清ニシテ非働性ナレバ(十)ナルニ働性ナレバ(一)ナル場合ノ屢ク之アルヲ見ル然レドモ(卅)以上ノ強反應ヲ呈スル血清ハ働性ニ於テモ陰性ヲ呈スルコト甚ダ稀ナルガ故ニ働性ナリトテ反應力ハ十分ニ存在シ唯鋭敏ノ度ニ於テ僅ニ劣ルノミナルヲ知ル予ハ場合ニヨリ假之ハ微毒ノ確診ヲ要スル時ニ於テハ寧ロ働性血清ノ陽性ナルヲ標準トスルノ誤ナキヲ信ズ又非働性血清ノ反應輪ヨリハ働性血清ノ白輪ハ其縁永ク限定ノ狀ニ存ス蓋シ働性血清ハ非働性ノモノヨリハ此「アンチゲン」瀰散ニ抵抗スルコト大ナルニヨラン其他稀レニ非働性血清管(甲乙管)ニ接際紙薄ノ白線ヲ畫スルコトアリ之レ普通ノ反應輪ト異ニシテ正シキ水平面ヲ作ラズ又正シキ輪環ヲ形成セズ且ツ直ニ現ハレ時ヲ經ルモ變化セズ少ク熟練スレバ固有反應輪ト誤認スルコトナシ思フニ予ノ試驗方法ハ血清ヲ硝子管ニ盛リテ後加熱スルガ故ニ表面少ク蒸發シ其部ノ管壁ニ血清ノ乾澗シタルモノ附着シ居リテ沈降原液ノ「アルコホル」ノ爲メ白變スルニ非ザルガ而シテ同一血清ヲ數本ノ硝子管ニ盛り同一ニ處置スルモ此性輪ヲ呈セザルモノ多ク之ヲ現ハスハ稀ナルガ故ニ是ハ偶然ノ出來事ニシテ試験ノ缺陷ナラザル可ラズ蓋シ先ヅ血清ヲ加熱シテ而

シテ後之ヲ反應試驗管ニ盛レバ此出來事ヲ防グヲ得ベシ。
 其他血清ノ選擇ニ就テハ兒玉氏等ノ戒告ニ從ヒ不透明及溶血現象ヲ呈シタルモノヲ忌避シタリ。
 以上ノ方法ヲ以テ検査セシ成績左表ノ如シ。

第一 表

微毒及疑微毒患者血清検査成績

番號	姓名	性	年齢	臨 床 診 斷	反 應	番號	姓名	性	年齢	臨 床 診 斷	反 應
一	吉田	女	二九	本人微毒症狀ナキモ兒ハ先 天微毒ヲ患フ 中心スコトーム(五年前硬 下疳スピロヘーテ証明)	卅	一	吉井	男	四六	畢丸護膜腫 シヤンケル、アールボ(前癩 微毒ヲ氏反應(十))	卅
二	松浦	男	三九	聲嘔駭鼻	卅	二	春田	男	二六	癩疾(微毒傳染機會多シ)	卅
三	米村	女	三六	目下微毒症ナキモ二年前「ア 氏反應(卅)サルワルサ」注射	卅	三	高澤	男	二六	頸腺付腺微毒性腫大(昨年 「ア」氏反應(卅)「アールボ」(微毒 混合感染ノ疑)	卅
四	峯尾	男	四一	頭痛(七八年前「アールボ」 リス)	卅	四	西川	男	二九	脊髄散在性硬變?	卅
五	上田	男	三七	丘疹性微毒	卅	五	野崎	男	二七	脊髄散在性硬變?	卅
六	上田	女	二四	アールボ(二ヶ月前「ア」氏反應 (十)サルワルサ注射)	卅	六	見津	男	三〇	鼻中隔護膜腫性潰瘍(五年 前微毒性丘疹)	卅
七	赤津	男	二〇	痔瘻(微毒合併ノ疑アリ)	卅	七	朝倉	男	二九	骨髄膜腫?	卅
八	宮本	男	二二	咽頭充血(微毒ノ既往症アリ)	卅	八	槻倉	女	二八	畢丸護膜腫治癒後(「アルサ ミノール」四回注射後)	卅
九	勝見	女	一九	第二期微毒	卅	九	木村	女	五三	微毒性禿頭	卅
一〇	工藤	女	一九	喉頭軟骨膜炎	卅	一〇	吉井	男	四六	頭部搔痒(貧血數主婦)	卅
一一	熱野	男	三三	鼻微毒	卅	一一	石田	男	二四	慢性咽頭充血付腺腫大(早 産四回)	卅
一二	吉田	女	二四	コシカローム、中心スコト ーム全治後	卅	一二	西野	女	三〇	シヤケル、アールボ(先 天微毒ノ既往症アリ)	卅
一三	喜多	男	三七	第二期微毒	卅	一三	八田	男	一六	護膜腫	卅
一四	下田	女	二二	腦脊髄散在性硬變?	卅	一四	無量井	男	三二	三年前硬性下疳(爾來加療 セス)	卅
一五	増田	男	三九	第二期微毒	卅	一五	越村	男	三〇		卅
一六	横川	男	二六	第二期微毒(昨年「ア」氏反 應(卅)内服療法チナス)	卅	一六	越村	男	三〇		卅

原 著

岡本 兒玉氏沈降反應法ノ微毒診斷上ニ於ケル價值ニ就テ

一七 金丸	男	三八	出血性腎臟炎	一	士	三七	山内	男	三〇	硬性下疳	同	十
一八 關戸	男	五五	護膜腫	十	廿	三八	村田	男	三三	第二期微毒	同	廿
一九 岡崎	男	三五	微毒現症ナシ(傳染機會多シ)	卅	卅	三九	梅本	男	二二	アトポー 脱毛	同	廿
二〇 高木	男	二〇	肝腫大咽喉潰瘍 (微毒ノ疑)	一	一							

此成績ヲ吟味スルニ(確實ヲ期スル爲メ成績(七)ヲ(一)トシテ算入シ又症例少クシテ)三十九名ノ臨床上微毒及疑微毒患者中兒玉氏反應陽性ナルモノ三十二例アリ則チ八十二%ヲ示ス而シテ其中ワッセルマン氏反應ト對照セシモノハ三十例ニシテ兩反應一致セルモノ二十二例則チ七十三%アリ爾餘ノ不一致タル八例中ノ多數ハ兒玉氏反應成績陽性ニシテ臨床診斷ト同一方向ヲ示スモノノ如シ就中第六號上田ハ始メワッセルマン氏反應陰性兒玉氏反應陽性ナリシガ驅微療法後ニ至リ反對ノ成績ヲ出セリ(後出)又第二十二號春田ハ前妻ワッセルマン氏反應陽性ニシテ自身「シヤンケル」「ブーボー」ヲ有シ微毒感染ノ疑十分ナルニモ拘ハラズ兒玉氏反應強陽性ナルニワッセルマン氏反應陰性ナリキ如此例ハ吾人ヲシテ此ワッセルマン氏反應成績ニ疑ヲ懷カシメ此兒玉氏反應成績ニ信用ヲ置カザルヲ得ザラシム而シテ此三十例中ワッセルマン氏反應陽性ナルモノ十五例(五〇%)ナルニ兒玉氏反應陽性ナルモノ二十三例(七六・六%)ヲ算ス概言スレバ此表ニ於テ兒玉氏反應ハ殆ンド臨床所見ト一致シワッセルマン氏反應トモ大概符合シ寧ロワッセルマン氏反應ニ勝ルカノ如キ觀アリト云フベシ。

第二表

非微毒患者及健康者血清検査成績

番號	姓名	性	年齢	臨床診斷	反應	番號	姓名	性	年齢	臨床診斷	反應	
一	眞鍋	男	二五	慢性腎臟炎、急性淋疾	法氏兒玉氏法	一	一六	白江	女	一八	アロベチア、アレアーダ	法氏兒玉氏法

二	北山	女	三八	多發性癩麻質性關節炎	—	—	一七	吉田	男	二八	陰莖エロジオン	—	—
三	五十田	女	二四	健全	—	—	一八	出村	男	三四	疥癬	—	—
四	喜多	男	二五	副睪丸炎、精系炎	—	—	一九	北島	女	三五	健全	—	—
五	黒田	女	二八	健全(兒遺傳微毒ノ疑アルモ)	—	—	二〇	濱松	男	三五	淋疾、尿道周圍炎	卅	—
六	待寺	男	二七	急性淋疾	—	—	二一	西川	女	二一	健全(夫ハ微毒)	—	—
七	無量井	女	三〇	健全(但夫ハ護膜腫)	—	—	二二	常	男	二五	淋疾	—	—
八	矢舖	男	四二	痔瘻	—	—	二三	江崎	男	二六	淋疾、アーポー	—	—
九	絹谷	男	六二	糖尿病、血管硬變	—	—	二四	南	男	二二	アーポー軟性下疳	—	—
一〇	間戸	男	三一	皮脂漏性濕疹(シヤンケルノ既往症アレハS微ナシ)	卅	—	二五	金谷	男	四三	慢性淋疾(シヤンケルノ既往症アルモS微ナシ)	卅	—
一一	河端	男	二四	淋疾	—	—	二六	田邊	男	四五	慢性腸加答兒	—	—
一二	春田	女	二〇	健全(夫ハシヤンケルアポー)	—	—	二七	太田	男	二二	頸腺腫大スルモ他ニ微毒ナシ	—	—
一三	安川	男	一九	恐徽症	—	士	二八	田村	男	一九	先天性包皮口狹窄非淋毒性副睪丸炎	不檢	—
一四	水戸	男	二三	包莖(入浴ヲ怠レハ時ニ包皮炎ヲ起ス)	—	—	二九	中野	男	二〇	慢性ウルチカリア	同	—
一五	宮本	女	一八	バルトリ氏腺炎	—	—	三〇	辻田	男	二八	淋疾	同	士

此成績ニ依テ觀レバ非微毒患者及健康者三十例中唯第二號多發性癩麻質私性關節炎ヲ有スル北山ヲ除クノ外悉ク兒玉氏反應(一)若クハ(士)ヲ示ス則チ九七%ハ臨床診斷ト一致セリ又ワッセルマン氏反應ト對照セル二十七例中相一致セルモノ二十三例(八五%)ニシテ不一致ナルモノ四例ナリ而シテ此不一致ノ例ハ臨床診斷兒玉氏反應ニ有利ニシテワッセルマン氏反應ニ不利ナルガ如シ兎ニ角此表ニヨリテ見ルモ兒玉氏反應ハ臨床診斷及ワッセルマン氏反應ト略ボ雁行スルヲ知ルベシ。

第三表

驅微療法ニヨル兒玉氏反應ノ影響

原者 岡本ハ兒玉氏沈降反應法ノ微毒診斷上ニ於ケル價值ニ就テ

番號	姓名	性	年齢	臨床診斷	初回反應 法 氏 兒玉	療 法	次回反應 法 氏 兒玉	療 法	第三回反應 法 氏 兒玉
一	上田	女	二四	頭痛(七年前バプロシヒリス)	一	二回アルサミノール注射	十		
二	上田	男	三七	丘疹性微毒	卅	アルサミノール二回 イマミコール四回	十		
三	五十田	男	二四	微毒性禿頭	不檢	アルサミノール四回	十		
四	無量井	男	三二	護膜腫	同	アルサミノール四回	十		
五	吉田	女	二四	鼻微毒	卅	アルサミノール二回	卅		
六	吉井	男	四六	睪丸護膜腫	卅	アルサミノール三回	一		
七	西川	男	二九	肘腺微毒性腫大	卅	アルサミノール三回	卅	アルサミノール七回	卅
八	見津	男	三〇	散在性脊髄硬變?	卅	アルサミノール四回	不檢	青酸酸化水銀八回	卅

之ニ依リテ見レバ兒玉氏反應ノ強度ハ驅微療法ニヨリテ減弱スルガ故ニ一ノ微毒反應タルヤ疑フ所ナシ。

以上記述セシガ如ク予ノ實驗例數ニ於テ未ダ足ラザル所アレドモ大體兒玉氏沈降反應ノ微毒診斷上ニ於ケル價值ハワッセルマン氏反應ニ讓ラズ寧ロ彼ヨリハ鋭敏ナルノ觀アルガ故ニ實地ニ賞用スベキモノナルヲ信ズ凡テ診斷上餘リニ鋭敏ナル反應ヲ用ユル際注意スベキハ常態ヲモ病的ニ誤入シ非特異反應モ特異反應ト誤認スルノ失敗ヲ演ズルコトナリ故ニ兒玉氏反應ヲ以テ微毒ヲ診定セントスルニハ(卅乃至十)ヲ以テ陽性トシ(十)ナル場合ハ之ヲ寧ロ陰性ノ部ニ算フルヲ以テ實地上安全ナリトス且又(十)ノ場合ニ於テモ關節痠麻質私ノ例ニ見タルガ如ク非微毒性ナルコトナキニ非ザルヲ以テ常ニ臨床所見ヲ顧慮スルノ必要ナルハ云フ迄モナシ而シテ一方(一)ノ場合ニ於テモ必シモ微毒患者ナラズト斷言スルハ躊躇スベキコトナリ然レドモ這般ノ缺點ハ兒玉氏反應ノ眞價ヲ滅却スルモノニ非ズ今日用キラルル診斷的反應ニシテ單ニソレ自己ノミニテ絶對的價值アルモノハ未ダ之レアラズ「ツベルクリン」反應然リウキダール反應然リワッセルマン反應亦然リ豈夫レ兒玉反應ノミナランヤ。

夫レ然リ然レドモ予ハ今此小實驗ヲ以テ兒玉氏反應ノ眞價ヲ斷定セントスルモノニアラズ尙ホ検査ヲ繼續シテ更ニ
批判ヲ下サンコトヲ期スルモノナリ。

終ニ蒞ミ此調査ニ便宜ヲ與ヘラレタル兒玉博士及ビ材料ヲ惠與セラレタル山田學兄ニ感謝ノ意ヲ表シ併テ今後ノ助
力ヲ乞フ。